

地域産業・地域企業の育成に向けた信州大学 USR の活動紹介

～国立暨南国際大学 EMBA の視察受け入れ事例～

国立大学法人 信州大学

ユニバーシティ・エンゲージメント室

室長 林 靖人、副室長 藤尾 宗太郎

今回の TJA ニュースでは、国立大学法人信州大学(以下、信州大学) ユニバーシティ・エンゲージメント室(以下 UE 室)が行った、地域産業・地域企業の育成に向けた USR(University Social Responsibility)活動を、国立暨南国際大学 EMBA(Executive Master of Business Administration) 課程(以下、暨南国際大学)へ紹介した事例について報告する。

信州大学では、USR を「本学の理念や目標の実践を通して、社会の持続的な発展に寄与すること」としている。

・信州大学の社会的責任(USR レポート) ……<https://www.shinshu->

[u.ac.jp/social/responsibility/](https://www.shinshu-u.ac.jp/social/responsibility/)

UE 室においてもこの考えに基づき、ミッション遂行の中で各種 USR 活動を行っている。

2024 年 3 月 21 日(木)から 22 日(金)にかけて、暨南国際大学の教員・社会人学生約 30 名の

視察を受け入れ、信州大学が取り組む USR 活動を紹介した。また長野県の塩尻市、及び株式会社 NiKKi Fron を訪問し、新たな関係構築へ繋げるために交流の場を設定した。

[UE 室の概要]

UE 室は、2020 年 12 月に信州大学に設置された部署である。UE 室の目的は「地域課題解決のための実践的教育を展開するとともに、総合大学として多分野にわたる教育研究による戦略的な地域連携を通じて地域社会の発展に貢献すること」であり、「大学が "生涯にわたる学び・探究の伴走者" となり、よりよい地域・社会の発展を担うために、大学と皆様の協働・協創の仕組みを構築する」を目指している。主業務として「①国内外の大学又は地域と連携したグローバルな地域活性化事業に関すること」、「②地域の人材循環を生み出す地方創生事業の構築に関すること」、「③新しい研究・教育・地域連携活動様式の創造と共有に関すること」、「④地域と大学のブランド・リレーションの強化に関すること」を推進している。

[国立暨南国際大学との交流]

信州大学と暨南国際大学は、2018 年に両校の情報交換会を行ったことをきっかけに交流を深め、2019 年に国際学術交流協定 MoU を締結した。同年、日台大学連盟準備会議が設置され、以降は UE 室を主な窓口とし TJA(Taiwan-Japan-Alliance)のプラットフォームを通じて、「地方創生」「地域活性」「社会実践」「人材育成」などをテーマに交流を続けている。

「1.暨南国際大学との意見交換会・校内見学」

2024年3月21日(木)、暨南国際大学の教員・社会人学生約30名が信州大学松本キャンパスを訪問した。UE室より、信州大学を含む信州100年企業創出プロジェクトコンソーシアムで推進する実践型リカレント学習プログラムである「信州100年企業創出プログラム」を紹介した。本プログラムは地域産業・地域企業の育成を目的に「都市圏・大企業で働いた経験がある人材」と「長野県の中小企業」を、大学のリカレント学習を軸にマッチングするプログラムである。日本全体における課題である「首都圏への人口一極集中の緩和」「地方都市の経済活性化」を実現するプログラムとして国内で高い注目を集めている。日本と同様に「少子高齢化」「地方都市の人口流出」「都市部と農村部の経済格差」を社会課題として抱える台湾からも注目をされている。信州大学が取り組むUSR活動の一環として紹介し、暨南国際大学側からも活動に対する詳細について質問を頂くなど、闊達な意見交換が行われた。



信州大学における意見交換会の風景

・信州 100 年企業創出プログラム Web サイト ……<https://shinshu-100y.shinshu-u.ac.jp/>

・はたらきまなび Regional [エントリーサイト] ……
<https://regionalllearning.jp/gaiyo/toyama/>

意見交換会の後、信州大学松本キャンパス内の「自然科学館」「附属図書館」を見学し、暨南国際大学の参加者に対して本学の特色について説明を行った。



信州大学 自然科学館 見学の風景

信州大学自然科学館で所有する約 40 万点の植物標本は、国立科学博物館と連携し国際的なデータベースに登録されている。また国内でも類を見ない標本数を誇る雷鳥の剥製や高山植物標本を遺伝子解析研究に活用している事例も紹介した。

- ・ 信州大学 自然科学館 Web サイト …<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/museum/>



信州大学 附属図書館 見学の風景

自然科学館を見学した後、信州大学松本キャンパス内にある附属図書館を見学した。信州大学附属図書館は、教育・研究の学術基盤組織として「学生の学習支援」「学術情報の提供」「人類の知的活動の蓄積と発信」「国際交流」「地域に根差した文化の振興」を理念としている。

・信州大学 附属図書館 Web サイト ……<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/>

「2.塩尻市での意見交換会・フィールドワーク」

信州大学を訪問した後、信州大学が携わる地域産業の育成の取り組みについて紹介すべく、塩尻市を訪問した。塩尻市は信州大学との連携協定を締結しており、ワインを中心とした地域ブランドの創出で20年来協働し、一大産地として成長している。また、市民活動も盛んであり、今回の視察では、その拠点となっている市民交流センター「えんぱーく」において、塩尻市との意見交換会及び塩尻市長・百瀬敬氏との交流会を実施した。意見交換会では地域産業の育成に関する闊達な意見交換が行われた。「えんぱーく」を訪問後、塩尻市への理解を深めて頂くべく、塩尻市の特徴であるワイナリーにてフィールドワークを実施した。



塩尻市における意見交換会及び交流会の風景

・塩尻市市民交流センター 「えんぱーく」 Web サイト ……<https://enpark.info/>



塩尻市にあるワイナリーでのフィールドワークの風景

フィールドワークで訪問をした「サンサンワイナリー」。地域の環境保全と振興を持続的に実現できると考え、荒れ果てた耕作放棄地をワイナリーにした歴史を持つ。

・サンサンワイナリー Web サイト …<https://sun-vision.or.jp/sunsunwinery/>

「3.株式会社 NiKKi Fron との意見交換会及び工場見学」

2024年3月22日(金)、長野市にある株式会社 NiKKi Fron を訪問した。当企業は信州大学との産学連携がきっかけで業態変換をし、成長を続けてきた。そして、さらなる成長を目指して、「信州100年企業創出プログラム」に参加した企業である。半導体産業、自動車産業の両分野にフッ素樹脂や繊維強化プラスチックといった最先端の素材や加工部品、そして機械装置を提供するメーカーとしてグローバルにビジネスを展開しており、その中で、同プログラムでマッチングした人材が活躍しているなど、信州大学とも深い繋がりを持つ。

当日は代表取締役社長・春日孝之氏より企業の理念・歴史・事業内容について説明を頂いた後、同社の工場見学を実施した。NiKKi Fron の社員からも「有意義な意見交換が出来た」との言葉を頂くことができ、また暨南国際大学へも本学が取り組むUSR活動を体感して頂くことができた。



株式会社 NiKKi Fron における交流及び工場見学の風景

・株式会社 NiKKi Fron Web サイト … <https://www.nikkifron.com/>

今後も UE 室は、地域産業・地域企業の育成を通じ、信州大学のUSRの活動を推進し、TJAのプラットフォームを通じて情報の発信を続ける。